

標準的乳がん検診と高濃度乳房について



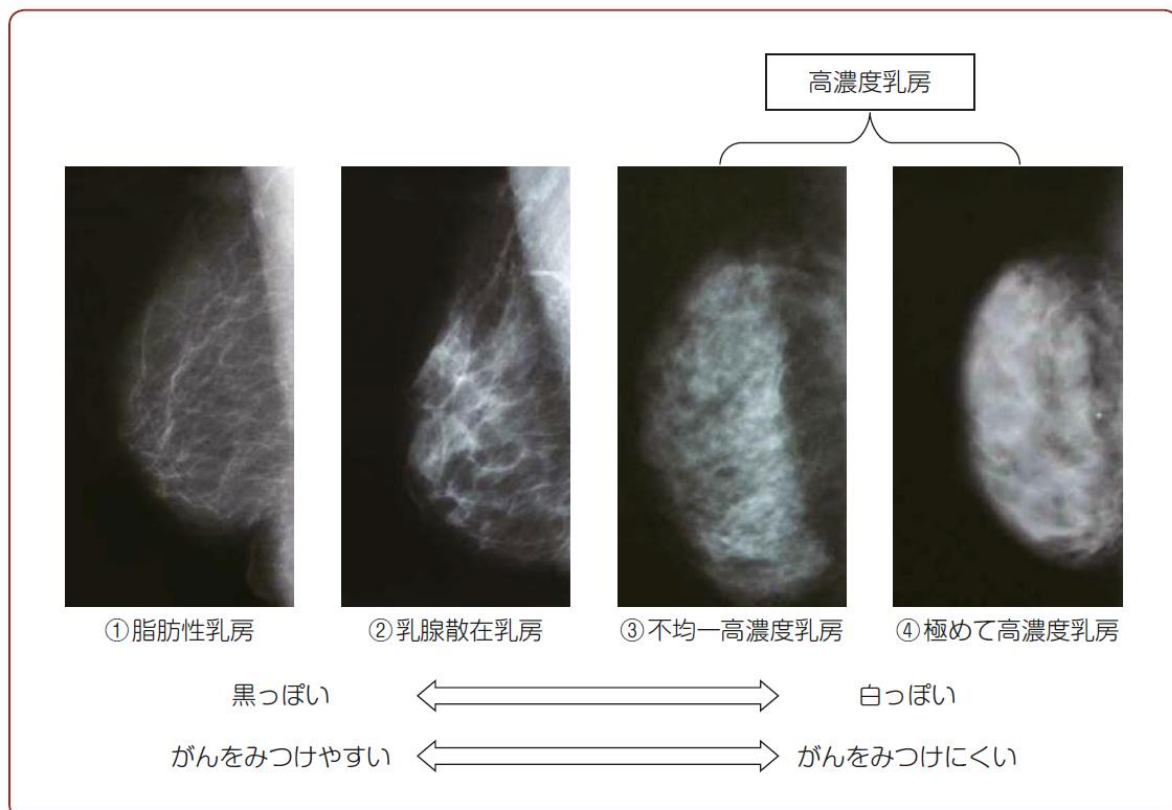
乳がん検診の目的は乳がんで亡くなる人を減らすこと（死亡率減少効果）です

乳がんの死亡率減少が証明された検診はマンモグラフィだけです。日本人女性の乳がんの好発年齢が45～49歳と60～64歳ですので、日本では40歳以上の女性に対して検診マンモグラフィが推奨されています。

高濃度乳房

高濃度乳房は、乳房の構成（乳房内の乳腺と脂肪の割合）を表す言葉であり、病気ではありません。

- ・高濃度乳房の場合は、そうでない場合と比べると、乳がんがあってもマンモグラフィで見られにくくなりますが、まったく検出できないということではありません。
- ・高濃度乳房の方に勧められる追加検査として、超音波検査が期待されますが、現時点で死亡率低下についての証拠がありません。
- ・高濃度乳房であるかどうかにかかわらず、定期的にご自身の乳房の変化を確認すること（ブレスト・アウェアネス）や、定期的に検診を受けること、そして、何か症状があれば、たとえ検診マンモグラフィで「異常なし」と判定されていても放置せず、速やかに医療機関を受診してください。



参考

乳がん検診の適切な情報提供に関する研究 HP

